

生 体 計 測

—身体各部寸法について (12) —*

妊 産 婦 (3)

藤 田 光 子・和 田 みどり

Body Measurement

—Measurements of Parts of the Body (12)—

Pregnant and Nursing Women (3)

Mitsuko FUJITA and Midori WADA

Abstract

During the period between 1973 and 1976, we followed up the bodily changes of 30 pregnant women and nursing mothers by taking monthly measurement of the parts of their bodies between the 4th and the 10th month of their pregnancy and on the first month after childbirth. A close examination was given to the monthly increase and decrease in the measurements, the ratios to stature, the ratios of trunk thickness to trunk width and the changes of posture as pregnancy advanced. Here is a brief summary of the results.

1. The items which showed a remarkable increase between the 4th and the 10th month of pregnancy were as follows: abdominal extension height (front) 7.4cm (8%), cervicale to center front at waist 19.3cm (27%), abdominal extension girth 14.2cm (17%), abdominal thickness 8.1cm (38%), abdominal slope 25.0° (129%) and weight 10.6kg (22%).
2. The monthly increase was remarkable between the 5th and the 8th month and most remarkable in the 5th and the 6th months.
3. The restorability after childbirth was high in the items of length and thickness (80~97%) and abdominal slope (110%), and low in girth, width and weight items (30~76%).
4. In the following items, the ratios to stature showed little difference during the period between the 4th and the 10th month: back length (88), back waist height (61~62) and navel height (58~57). In the rest of the items, however, the difference was remarkable. It was remarkable especially in cervicale to center front at waist (47~59), waist girth (45~56), abdominal extension girth (55~64), waist thickness (12~18), abdominal thickness (14~19), abdominal slope (12~29) and weight (32~39).

* この研究は著者たちと、広島文化女子短期大学助教授谷山和美との共同研究である。

5. The ratios of trunk thickness to trunk width showed a gradual increase. In the 10th month, 70% of pregnant women were greater in thickness than in width on the waist and 23% on the abdomen.
6. As the abdomens grew big and protruded, pregnant women were seen to throw back their heads to balance themselves. After childbirth, they restored their former postures.

緒 言

妊産婦の衣服寸法設定の基礎資料を得ることを目的として、昭和45～46年に妊産婦 220 例（月別延べ 571 例）の測定を行ない、第 1 報¹⁾として報告した。引続き昭和48年10月から51年4月までに妊産婦30例について、同一対象の4ヵ月から10ヵ月・産後1ヵ月の月別追跡測定を行ない、そのうち6例については silhouette 撮影をあわせ行なった。今回は、これらの資料により妊産婦の身体各部各月間の増減・対身長示数値・体幹部の横径に対する矢状径の比率、月数による体型・姿勢の変化などについて検討したので報告する。

I 測定対象（第1表参照）

第1表 年齢区分別例数・百分率

出 産 順 位	年 齢 区 分								計	
	20～24		25～29		30～34		35～39			
	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%	例数	%
第 1 子	6	20.0	10	33.3	2	6.7	0	0.0	18	60.0
第 2 子	2	6.7	5	16.7	0	0.0	1	3.3	8	26.7
第 3 子	1	3.3	0	0.0	2	6.7	0	0.0	3	10.0
第 4 子	0	0.0	0	0.0	1	3.3	0	0.0	1	3.3
計	9	30.0	15	50.0	5	16.7	1	3.3	30	100.0

被測定者は広島市および東広島市とその近郊に在住する妊産婦30例である。そのうち25～29才のものが約50%で最も多く、次が20～24才で30%、30～34才は17%、35～39才は最も少なく3%である。また、第1子出産者は約60%で最も多く、第2子は27%、第3子は10%、第4子は3%である。

被測定者の約30%は会社員などの有職者、その他は主婦で、それらの家庭の職業は公務員・会社員が最も多く約80%をしめている。

1) 藤田光子他：生体計測—身体各部寸法について(8)—妊産婦(1) 広島女学院大学論集 第21集 (1971)

Ⅱ 測定および撮影期

身体各部位の測定および silhouette 撮影は、昭和48年10月から51年4月までの間に行なつた。

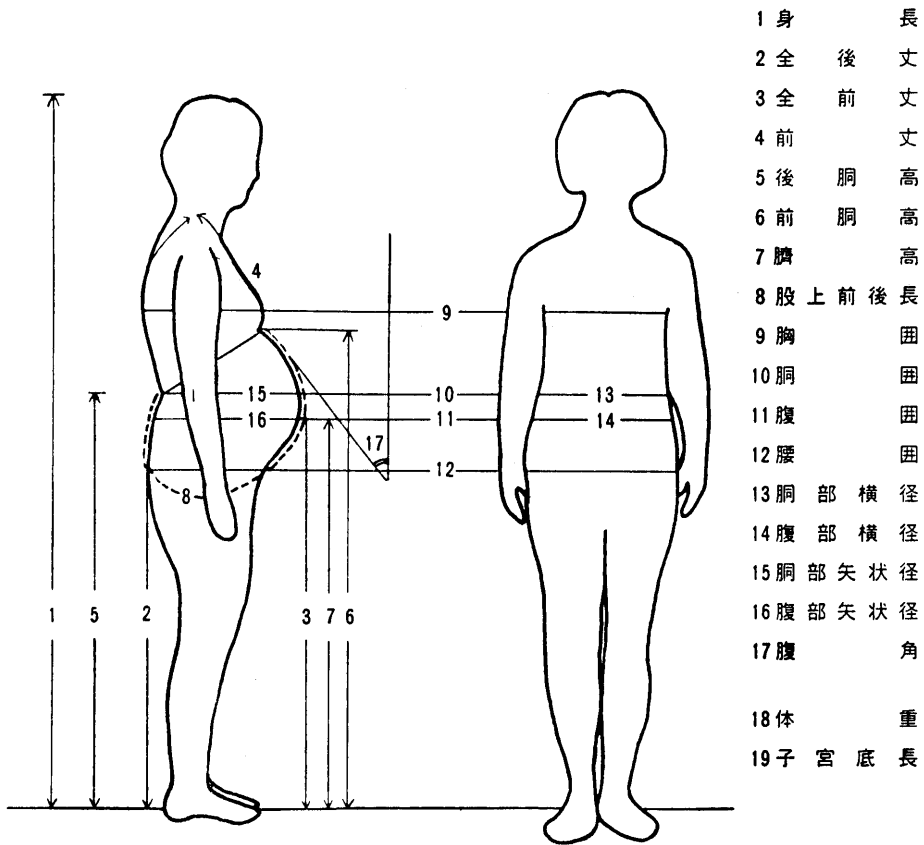
Ⅲ 測定部位・測定方法（第2表・第1図参照）

測定部位は長径・周径・横径・矢状径・腹角・体重および子宮底長など計19項目である。これらの測定方法は工技院の体格調査²⁾の方法に準拠し、○印の3項目は著者たちがきめた方法により行ない、子宮底長は医師または看護婦が測定した値を用いた。silhouette の撮影方法については第1報で報告したとおりである。

第2表 測 定 方 法

測定部位	測定用具	測定方法
1 身長	マルチン身長計	床面から頭頂点までの垂直距離を測る
○2 全後丈	金属製巻尺	右頸側点から肩甲骨突出部をとおり胸囲線までは体表にそい、床面までは垂直距離を測る
○3 全前丈	〃	右頸側点から乳頭点をとおり胸囲線までは体表にそい、床面までは垂直距離を測る
○4 前丈	〃	右頸側点から前胸囲線（上部）までを体表にそって測る
5 後胸高	マルチン身長計	床面から後胸囲線までの垂直距離を測る
6 前胸高	〃	〃 前胸囲線（上部） 〃
7 臍高	〃	〃 臍の位置 〃
8 股上前後長	金属製巻尺	胸囲線の前（上部）・後中心を基準として股上前後の長さを測る
9 胸囲	〃	乳頭を通る水平周径を測る
10 胸囲	〃	後胸囲線における水平周径を測る
11 腹囲	〃	腹囲線 〃
12 腰囲	〃	腰囲線 〃
13 胸部横径	マルチン杆状計	胸囲線における横径を測る
14 腹部 〃	〃	腹囲線 〃
15 胸部矢状径	〃	胸囲線における矢状径を測る
16 腹部 〃	〃	腹囲線 〃
17 腹角	人体角度計	正中線における腹部の角度を測る
18 体重	体重計	
19 子宮底長	ビニール製巻尺	恥骨結合から子宮底に至るまでの長さを測る

2) 工業技術院企画 日本人体格調査 (1966・67・71・72実施)



第1図 測定部位・項目

Ⅳ 測定結果および考察

1. 各妊娠月間の増減寸法(量)・増減率(第3表参照)

1) 長径項目についてみると、全前丈、前・後胴高、股上前後長はいずれも10カ月まで漸次増加し、産後は減少する。

a. 股上前後長の増減は特に著しく、9カ月までの各月間は3~4cm(4~5%)、9~10カ月間は2.4cm(約3%)増加する。10カ月は4カ月より19.3cm(約27%)増加し、産後は17.0cm(約19%)減少する。

b. 前胴高は9カ月までの各月間1~2cm(1~2%)、9~10カ月間は0.4cm(約0.4%)増加する。10カ月は4カ月より7.4cm(約8%)増加し、産後は7.1cm(約7%)減少する。

第3表 各月間増減寸法(量)・増減率 (cm)

項 目	4~5ヵ月		5~6ヵ月		6~7ヵ月		7~8ヵ月		8~9ヵ月		9~10ヵ月		10ヵ月~産後	
	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%	差	%
2 全 後	0.26	0.19	0.14	0.10	0.16	0.12	0.08	0.06	0.06	0.04	0.26	0.19	-0.76	0.56
3 全 前	0.58	0.43	0.85	0.63	0.84	0.62	0.46	0.34	0.48	0.35	0.38	0.28	-3.25**	2.35
4 前 胸	-0.87	2.31	-1.07*	2.99	-0.97	2.72	-1.07*	3.08	-0.65	1.93	-0.52	1.58	4.98**	15.33
5 後 胸	0.27	0.29	0.40	0.43	0.50	0.53	0.38	0.40	0.30	0.32	0.34	0.36	-1.87	1.96
6 前 胸	1.11	1.15	1.64	1.69	1.75	1.77	1.41	1.40	1.06	1.04	0.43	0.42	-7.09**	6.84
7 臍	0.14	0.16	0.08	0.09	-0.07	0.08	-0.03	0.03	-0.16	0.18	-0.51	0.58	0.15	0.17
8 股上前後長	3.08**	4.33	3.59**	4.83	3.22*	4.14	4.00**	4.93	3.02**	3.55	2.41*	2.74	-16.97**	18.75
9 胸 囲	1.40	1.68	1.50	1.77	1.57	1.82	0.86	0.98	0.97	1.10	0.14	0.16	-2.79*	3.11
10 胸 囲	2.53	3.70	3.80**	5.36	3.03*	4.04	3.34*	4.30	2.82*	3.48	2.20	2.62	-13.46**	15.64
11 腹 囲	2.21	2.65	2.54	2.97	1.76	1.20	2.30	2.56	2.87	3.11	2.56	2.70	-9.94**	10.19
12 腰 囲	1.09	1.24	1.52	1.71	1.35	1.49	1.37	1.49	1.27	1.36	0.66	0.70	-4.12**	4.33
13 胸部横径	0.51	2.19	0.52	2.19	0.45	1.85	0.55	2.22	0.38	1.50	0.31	1.21	-1.80**	6.93
14 腹部横径	0.21	0.72	0.36	1.22	0.17	0.57	0.23	0.77	0.18	0.60	0.07	0.23	0.35	1.15
15 胸部矢状径	1.40*	7.54	1.65**	8.26	1.56**	7.21	1.54**	6.64	1.36*	5.50	0.94	3.60	-6.73**	24.90
16 腹部矢状径	1.31*	6.19	1.62**	7.21	1.40**	5.81	1.30*	5.10	1.43**	5.34	1.07*	3.79	-6.75**	23.05
17 腹 角(度)	1.87	9.84	2.55*	12.22	4.90**	20.92	4.78**	16.88	4.47**	13.50	5.98**	15.92	-26.93**	61.84
18 体 重(kg)	1.35	2.77	1.97	3.94	2.16	4.15	1.85	3.41	1.86	3.32	1.43	2.47	-6.65**	11.20
19 子 宮 底 長	2.42*	20.54	5.30**	37.32	3.37**	17.28	3.71**	16.22	3.39**	12.75	2.58**	8.61	-	-

注 * 5%水準で有意 ** 1%水準で有意

c. 前丈は10カ月まで各月間 0.5~1.0cm (2~3%) 減少し、10カ月は4カ月より5.2cm (約14%) 減少、産後は5.0cm (約15%) 増加する。

身長・全後丈・臍高は各月間に大差ない。

2) 周径項目はいずれも10カ月まで漸次増加し、産後は減少するが、特に胴・腹囲の増減は著しい。

a. 胴囲は9カ月までの各月間3~4cm (4~5%)、9~10カ月間は2.2cm (約3%) 増加する。10カ月は4カ月より17.7cm (約26%) 増加し、産後は13.5cm (約16%) 減少する。

b. 腹囲は10カ月までの各月間2~3cm (1~3%) 増加する。10カ月は4カ月より14.2cm (約17%) 増加し、産後は9.9cm (約10%) 減少する。

3) 横径・矢状径項目についてみると、横径は矢状径に比して増加が少ない。

a. 胴部横径は10カ月までの各月間0.3~0.6cm (1~2%) 増加する。10カ月は4カ月より2.7cm (約12%) 増加し、産後は1.8cm (約7%) 減少する。

b. 腹部横径は胴部の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ 程度の増加で、他の部位と異なり産後も僅か増加する。

c. 胴部矢状径は9カ月までの各月間1.4~1.7cm (6~8%) 増加し、9~10カ月間は約1cm (約4%) 増加する。10カ月は4カ月より8.5cm (約46%) 増加し、産後は6.7cm (約25%) 減少する。

d. 腹部矢状径の増加は胴部よりやや小であるが、9~10カ月間はやや大で、10カ月は4カ月より8.1cm (約38%) 増加し、産後は6.8cm (約23%) 減少する。

4) 腹角は10カ月までの各月間2~6° (10~21%) 増加する。10カ月は4カ月より24.6° (約129%) 増加し、産後は26.9° (約62%) 減少する。

5) 体重は10カ月までの各月間に1~2kg (3~4%) 増加する。10カ月は4カ月より10.6kg (約22%) 増加し、産後は6.7kg (約11%) 減少する。

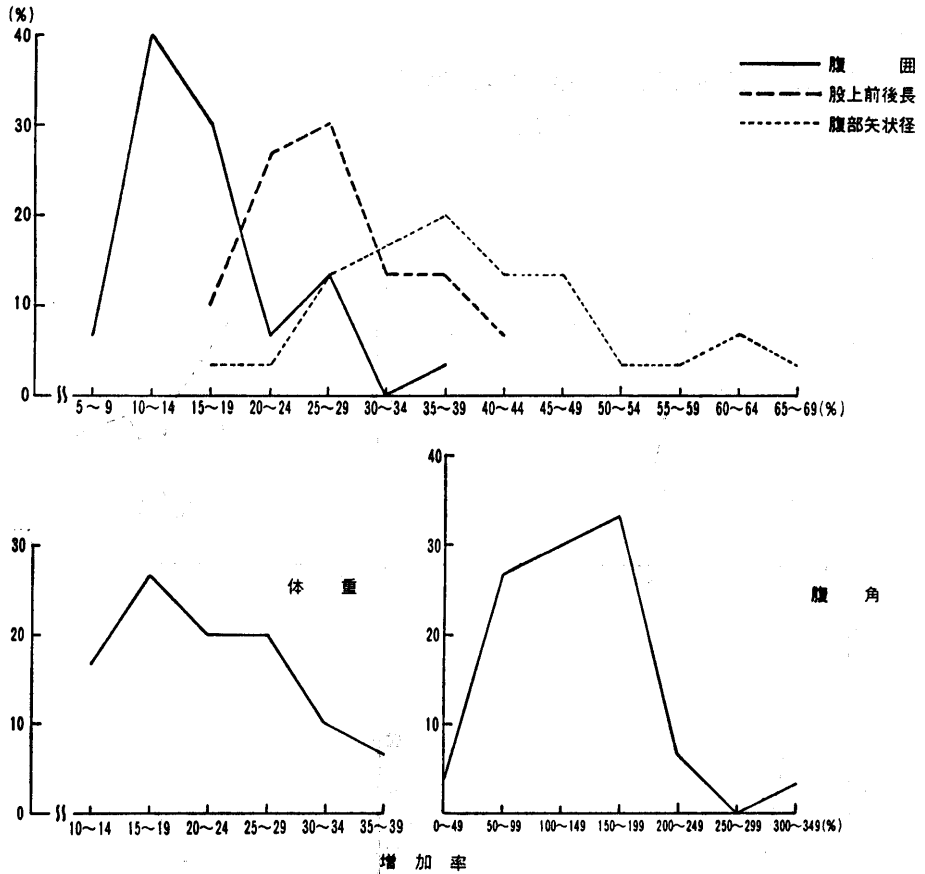
6) 子宮底長は各月間2~5cm (9~37%) 増加し、10カ月は4カ月より20.8cm (約180%) 増加する。なお、産後は測定しないため比較できない。

最大の増加を示す月間は胴・腰囲、腹部横径、胴・腹部矢状径、子宮底長は5~6カ月間、前胴高・胸囲・腹角・体重は6~7カ月間、股上前後長・胴部横径は7~8カ月間、腹囲は8~9カ月間である。また、減少を示す前丈は7~8カ月間が大である。

次に10カ月までの各月間の有意性の検定結果についてみると、股上前後長・腹部矢状径・子宮底長は各月間に、前丈・胴囲・胴部矢状径・腹角などは殆んどどの月間に危険率1~5%水準で有意差がみられる。また、10カ月から産後では全後丈・後胴高・臍高・腹部横径を除く各項目がいずれも危険率1~5%水準で有意差がみられる。

2. 4～10カ月間の増加率例数百分率（第2図参照）

増加の著しい項目についてのみ示す。



第2図 4～10カ月間増加率例数百分率

a. 腹囲についてみると、4～10カ月間に10～14%増加するものが約40%で最も多く、次は15～19%増加するもので30%である。また、増加率の最小は8%、最大は35%である。

b. 股上前後長は25～29%増加するもの約30%、20～24%増加するものが27%である。また、増加率の最小は16%、最大は44%である。

c. 腹部矢状径は35～39%増加するもの約20%、30～34%増加するもの17%、25～29%・40～44%・45～49%増加するものがそれぞれ約13%である。また、増加率の最小は18%、最大は67%である。

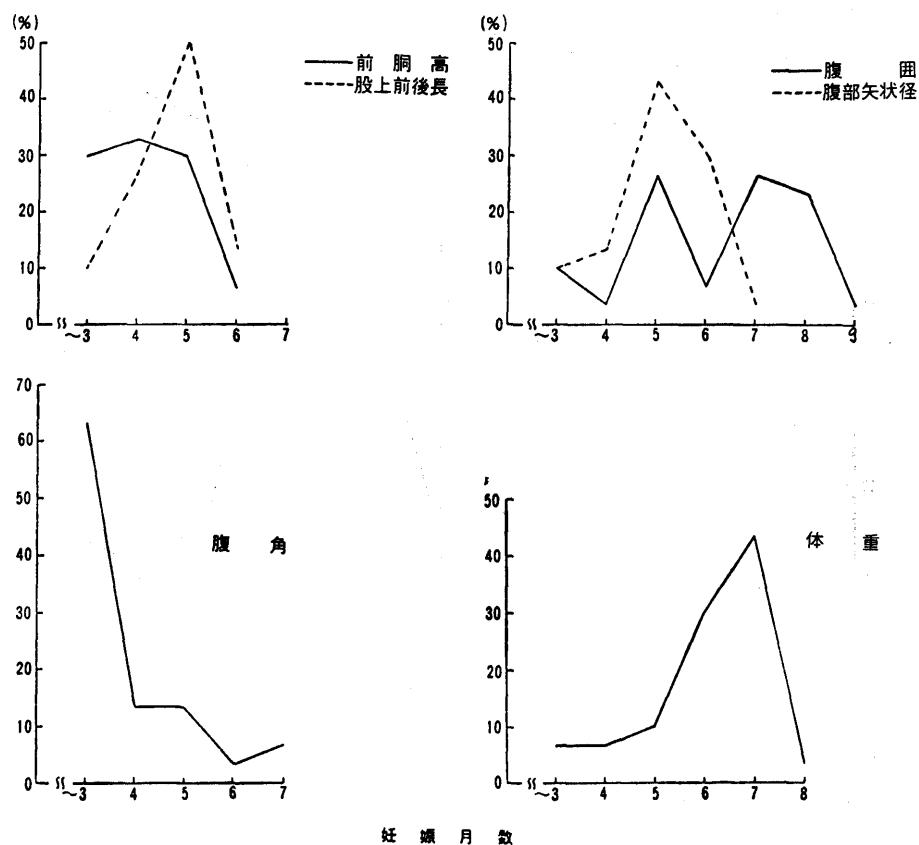
d. 体重は15～19%増加するものが約27%で最も多く、次は20～24%・25～29%増加する

もので、ともに約20%の分布である。また、増加率の最小は12%、最大は38%である。

e. 腹角は 150~199% 増加するものが約33%で最も多く、次が 100~149% 増加するもので30%、50~99%増加するものは27%である。また、増加の最小は47%、最大は304%である。

3. 復元率の妊娠月数別例数百分率 (第3図参照)

増加の著しい項目についてのみ示す。

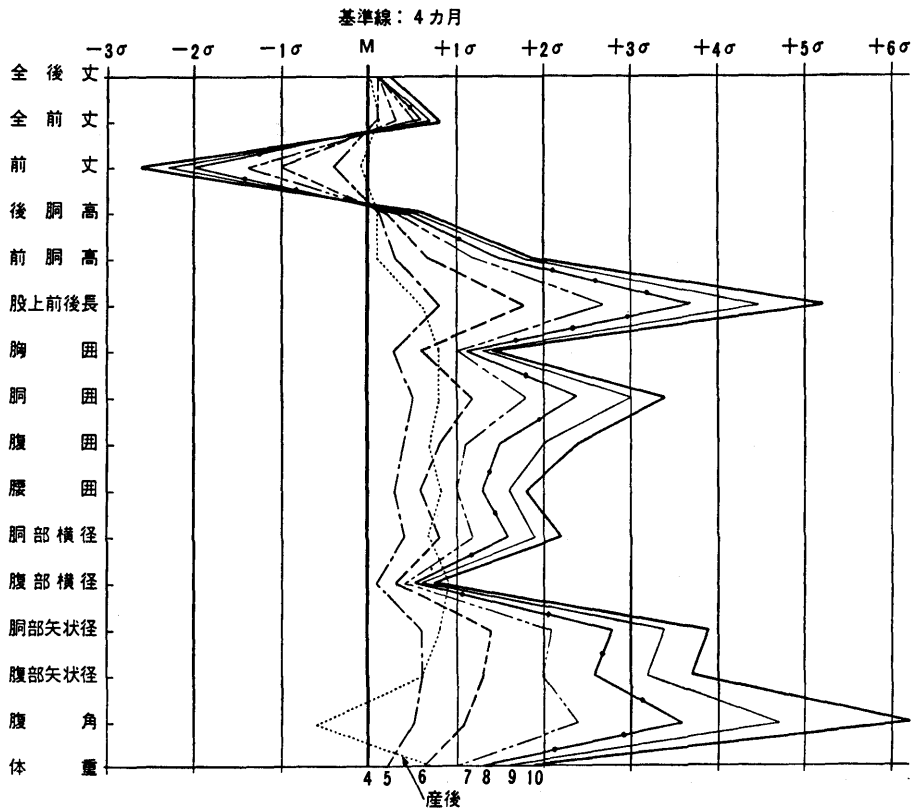


第3図 復元率の妊娠月数別例数百分率

a. 前胸高は産後4カ月値にもどるものが約33%、5カ月値にもどるもの、4カ月値より小となるもの、ともに約30%である。

- b. 股上前後長は産後5カ月値にもどるものが約50%で最も多く、次は4カ月値で27%、4カ月値より小となるもの10%である。
- c. 腹囲は5カ月および7カ月値にもどるものがともに約27%で、次は8カ月値の23%、4カ月値より小となるもの10%である。
- d. 腹部矢状径は5カ月値にもどるものが約43%で最も多く、次は6カ月値の30%、4カ月値より小となるもの7%である。
- e. 腹角は復元率が最も大で、4カ月値より小となるものが約63%、4カ月・5カ月値にもどるものがともに約13%である。
- f. 体重は7カ月値にもどるものが約43%で最も多く、次は6カ月値で30%、4カ月値より小となるもの7%である。

4. Mollison の関係偏差折線 (第4図参照)



第4図 Mollison の関係偏差折線

4カ月値を基準とした Mollison の関係偏差折線について、5～10カ月・産後1カ月の折線が基準線とへだたる状態を概観すると、へだたりの大きい項目は股上前後長、胴・腹囲、胴・腹部矢状径、腹角で、特に股上前後長・腹角が著しい。また、小さい項目は全後丈・全前丈・後胴高・腹部横径である。なお、前丈は負側に偏している。それらの折線の動きは5～8カ月間が概して大である。産後の折線についてみると、長径項目(股上前後長を除く)は基準線に近く、股上前後長・周径項目・胴部横径・体重は5～6カ月時の折線に接近しているが、腹角は負側に偏している。

5. 対身長示数值(第4表参照)

第4表 対身長示数值

項 目	妊 娠 月 数							
	4	5	6	7	8	9	10	産後
2 全 後 丈	88	88	88	88	88	88	88	88
3 全 前 丈	88	89	89	90	90	90	91	88
4 前 丈	25	24	23	23	22	22	21	25
5 後 胴 高	61	61	61	62	62	62	62	61
6 前 胴 高	63	64	65	66	67	68	68	63
7 臍 高	58	58	58	58	58	58	57	58
8 股 上 前 後 長	47	49	51	53	56	58	59	48
9 胸 囲	55	55	56	57	58	59	59	57
10 胴 囲	45	47	49	51	53	55	56	48
11 腹 囲	55	56	58	59	60	62	64	57
12 腰 囲	58	58	59	60	61	62	62	60
13 胴 部 横 径	15	16	16	16	17	17	17	16
14 腹 部 横 径	19	19	20	20	20	20	20	20
15 胴 部 矢 状 径	12	13	14	15	16	17	18	13
16 腹 部 矢 状 径	14	15	16	17	18	19	19	15
17 腹 角	12	14	15	19	22	25	29	11
18 体 重	32	33	34	36	37	38	39	35
19 子 宮 底 長	8	9	13	15	17	20	21	—

各項目の示数值の増減傾向をみると、身体各部平均値の増減とはほぼ同傾向である。

1) 長径項目

- a. 全後丈は各月とも88、全前丈は4カ月と産後88、10カ月は91である。
- b. 後胴高は4～6カ月と産後は61、その他は62である。
- c. 臍高は10カ月が57、その他は58である。

- d. 前胴高は 4 カ月と産後は63、10カ月は68である。
- e. 股上前後長は 4 カ月では47、10カ月は59、産後は48である。
- f. 前丈は 4 カ月では25であるが漸次小となり、10カ月は21、産後は25で大となる。

2) 周径項目

- a. 胸囲は 4 カ月では55、10カ月は59、産後は57である。
- b. 胴囲は 4 カ月では45、10カ月は56、産後は48である。
- c. 腹囲は 4 カ月では55、10カ月は64、産後は57である。
- d. 腰囲は 4 カ月では58、10カ月は62、産後は60である。

3) 横径・矢状径項目

- a. 胴部横径は 4 カ月では15、10カ月は17、産後は16である。
- b. 腹部横径は 4 カ月では19、10カ月と産後は20である。
- c. 胴部矢状径は 4 カ月では12、10カ月は18、産後は13である。
- d. 腹部矢状径は 4 カ月では14、10カ月は19、産後は15である。

4) 腹角・体重・子宮底長

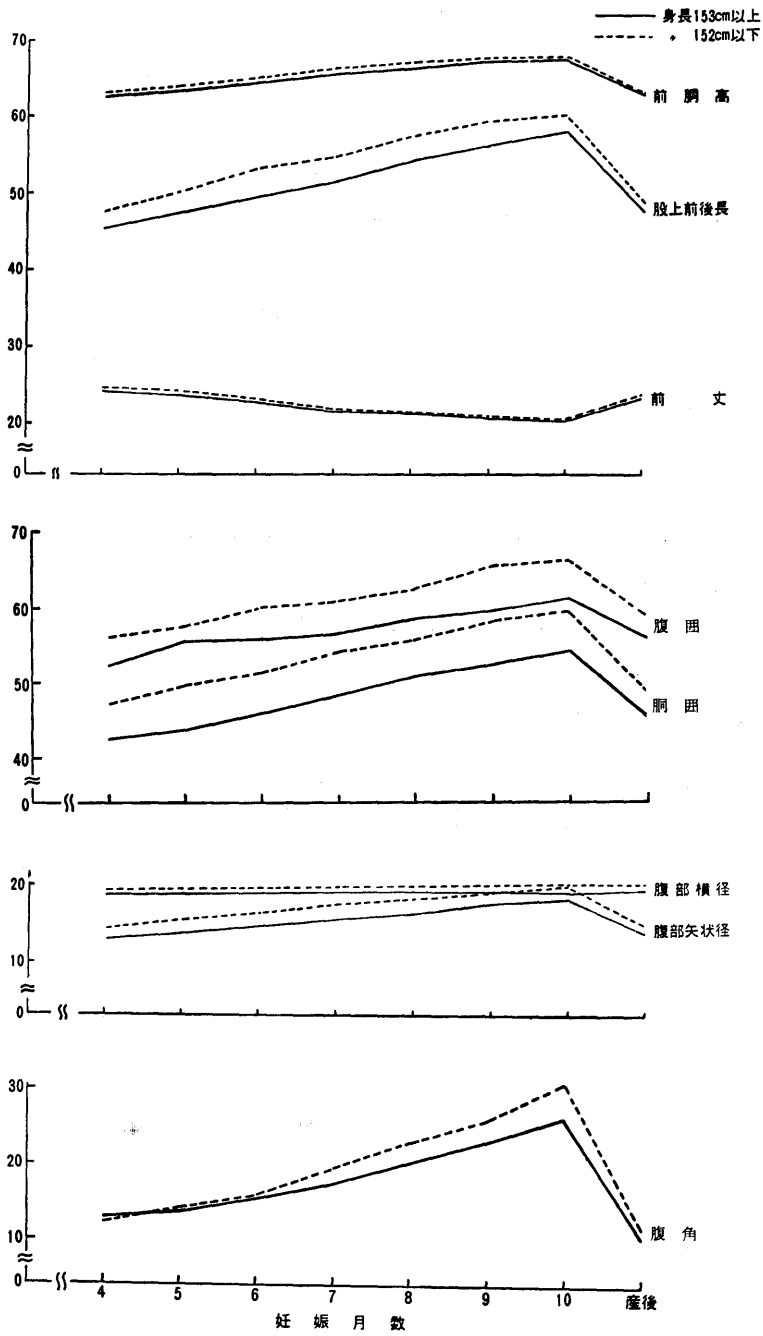
- a. 腹角は 4 か月では12、10カ月は29、産後は11である。
- b. 体重は 4 カ月では32、10カ月は39、産後は35である。
- c. 子宮底長は 4 カ月では 8、10カ月は21である。

6. 身長区分別対身長示数値 (第5—1・2図参照)

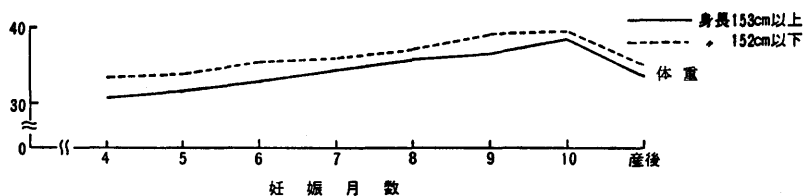
身長区分は 153cm 以上と 152cm 以下の2区分とした。

前胴高・前丈・腹部横径は身長区分間に大差ないが、股上前後長、胴・腹囲、腹角は身長の低いものの示数値(4~10カ月)が著しく大である。そのうち腹角は4~6カ月では大差ないが、それより月数が進むにつれてその差は大となる。

(藤田光子・和田みどり)



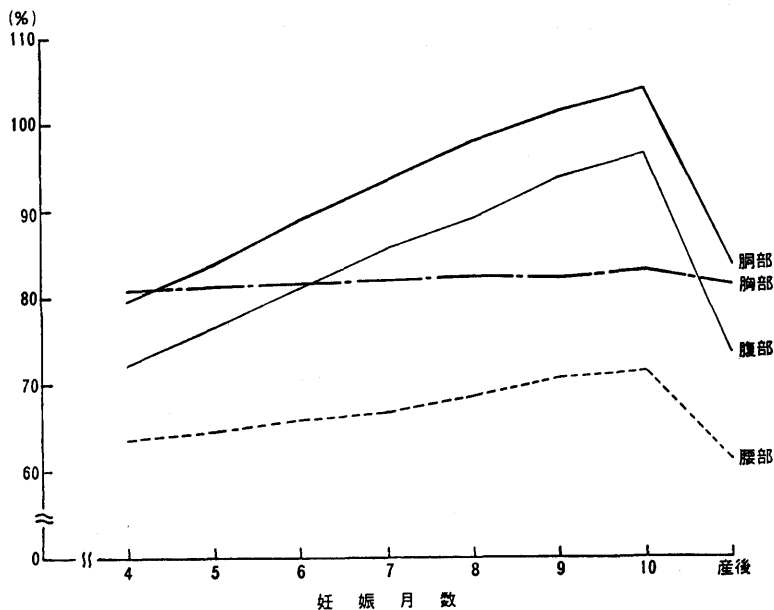
第5—1図 対身長示数值(身長区分別)



第5-2図 対身長示数值 (身長区分別)

7. 体幹部の横径に対する矢状径の比率 (第6図参照)

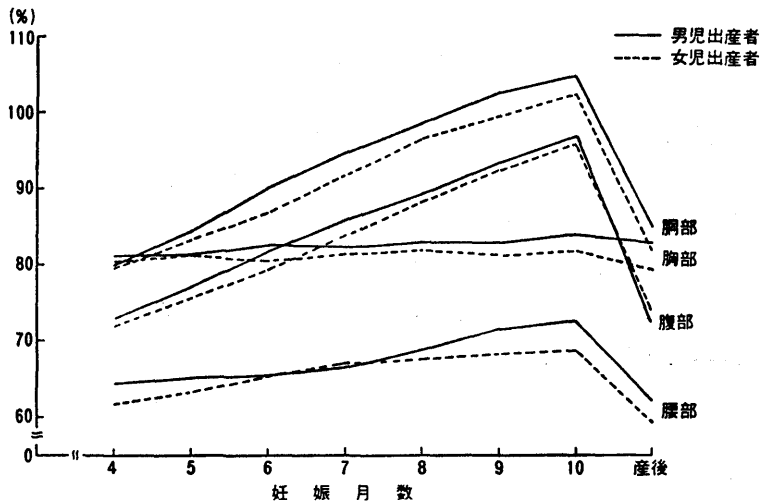
胸・胴・腹・腰部の横径に対する矢状径の比率は胸部を除き月数が進むにつれ大となる。この傾向は胴・腹部において著しく、4カ月の胴部矢状径は横径の約80%、腹部は約73%であるが、10カ月では胴部は約104%、腹部は約96%となる。なお、10カ月において矢状径が横径より大となるものが胴部は70%、腹部は23%である。また、産後はいずれも減少し、3～5カ月の比率にもどる。



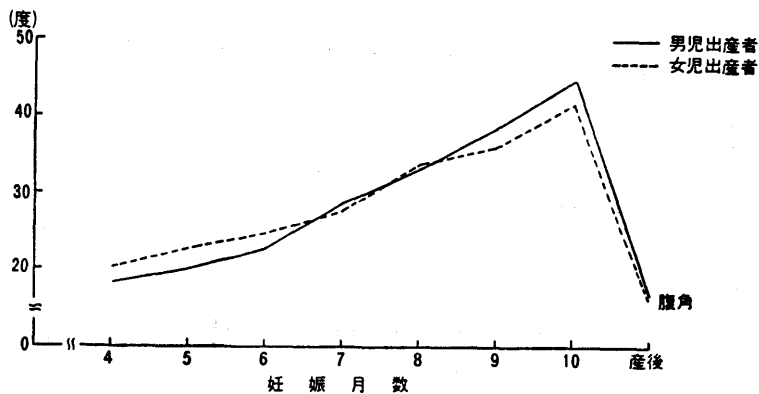
第6図 横径に対する矢状径の比率

8. 男女児出産者別体幹部の横径に対する矢状径の比率と腹角 (第7・8図参照)

10カ月の胸部の横径に対する矢状径の比率は、男児出産者84%・女児出産者82%、胴部は105%と102%、腹部は97%と96%、腰部は73%と69%である。腹角は45°と42°でいずれも男児出産者の方が大である。



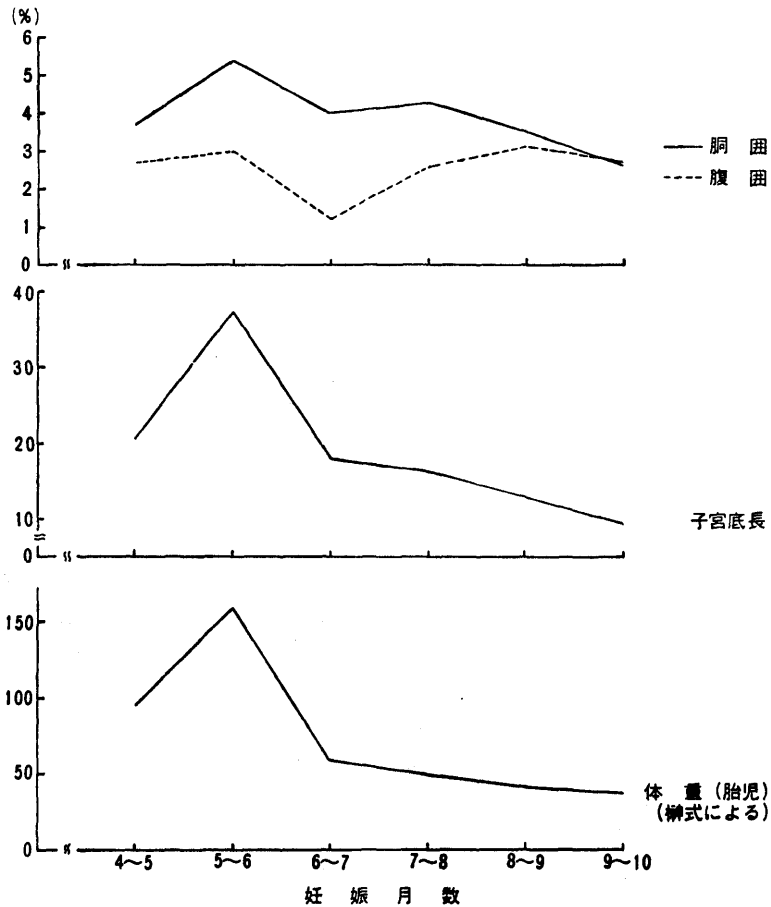
第7図 横径に対する矢状径の比率 (男女児出産者別)



第8図 腹角 (男女児出産者別)

9. 胸・腹囲、子宮底長、胎児の体重増加率（第9図参照）

妊婦の胸・腹囲、子宮底長の増加傾向と胎児の体重増加傾向はほぼ同じで、最大の増加を示すのはいずれも5～6カ月間である。これにより、妊婦の身体各部の増加と胎児の発育とは密接な関係があるものと推察される。

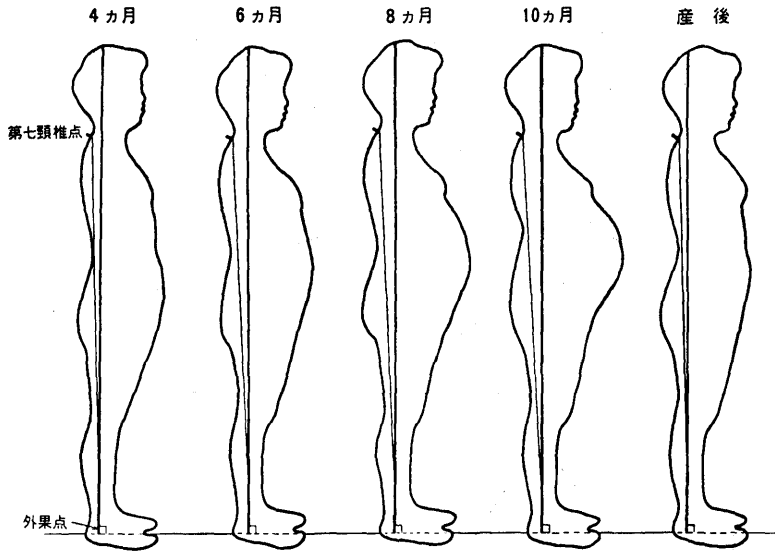


第9図 胸・腹囲、子宮底長、胎児の体重増加率

10. 姿勢の変化（第10図参照）

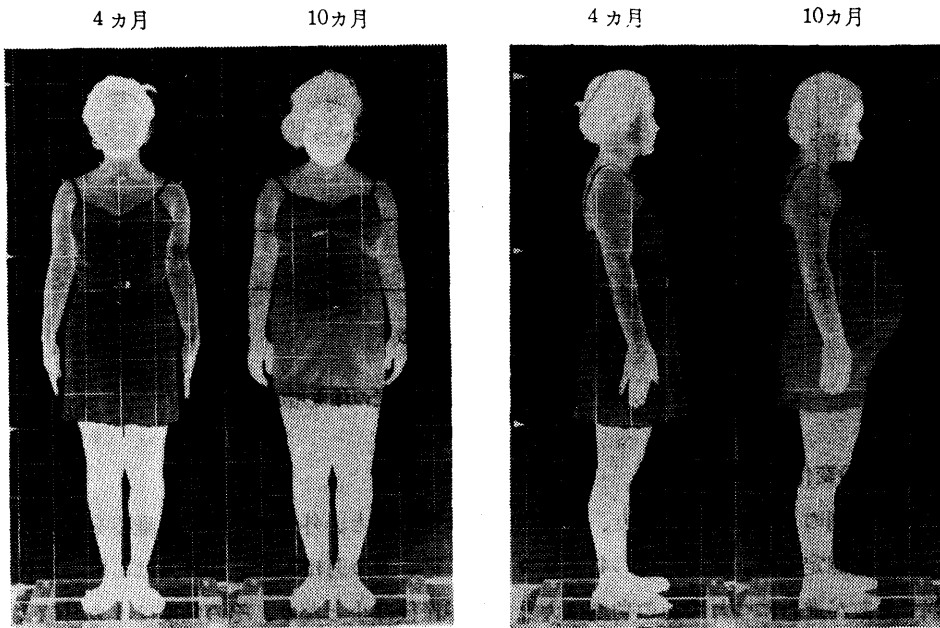
妊娠月数別の silhouette により、外果点からの垂直線と、外果点と第7頸椎点を結んだ線との角度を測定した。4カ月は1.4°、6カ月は2.2°、8カ月は2.3°、10カ月は2.8°、産後は1.2°で月数が進むにつれてその角度は大となるが産後は小となり、その角度は4カ月値より小となる。妊婦は腹部が著しく大となり、前方に突出するので平衡を保つため、上体を後方

にそらし、いわゆる反身姿勢になるが産後は常態時にもどるものと考えられる。



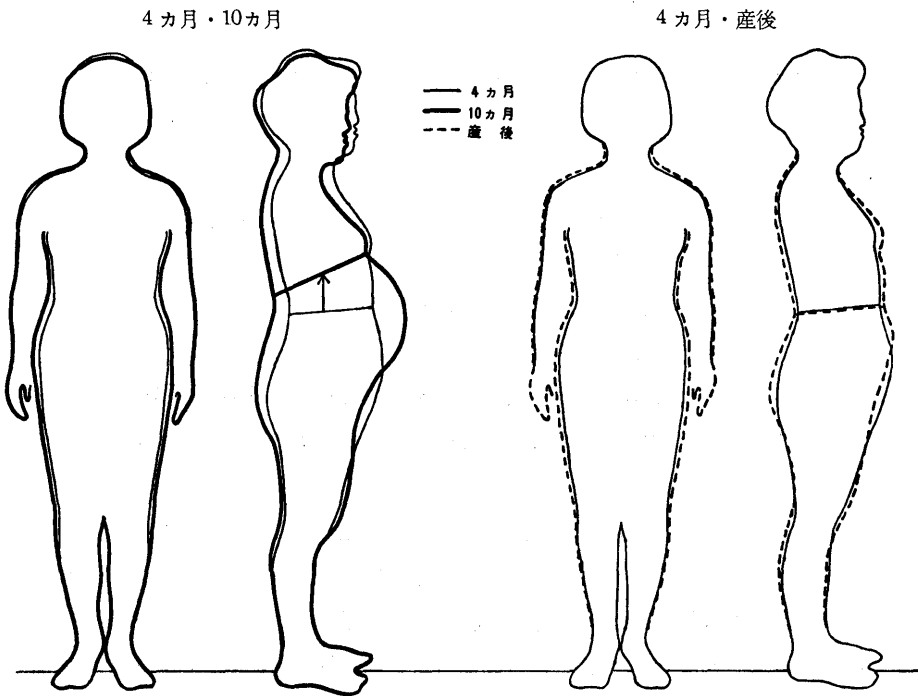
第10図 姿勢の変化

11. 体型の比較 (第11・12図参照)



第11図 妊婦の silhouette

第11図は4カ月と10カ月の silhouette (正面・側面)、第12図は4カ月と10カ月、4カ月と産後の silhouette を、正面は正中線、側面は外果点からの垂線を基準として重ね、体型を比較したものである。



第12図 体型の比較

4カ月・10カ月についてみると、正面では頸・肩・上腕・体幹・大腿部に僅かずつではあるが増加がみられ、全体的に大となっている。側面は体幹部・腹角など腹部を中心に著しい体型差がみられ、胴囲線は上部に移動し、姿勢は反身姿勢となっている。

次に4カ月と産後を比較すると、正面は両者間に大差はないが、側面の体幹部は胸・胴・腹部を中心に体型差がみられる。

結 語

以上の結果を要約すると次のとおりである。

1. 妊婦の身体で増加の著しいのは前胴高・股上前後長・周径項目・矢状径項目・腹角および体重である。出産までに前胴高 7.4cm (約8%)・股上前後長 19.3cm (約27%)・腹囲 14.2cm (約17%)・腹部矢状径 8.1cm (約38%)・腹角 24.6° (約129%)・体重 10.6kg (約

22%) 増加し、いずれも 1% 水準で有意である。なお、前丈は他の項目と異なり、5.2cm(約 14%) 減少する。

各月間の増加を比較すると、概して 5～8 カ月間の増加が大で、特に 5～6 カ月間が著しい。なお、胎児の体重の最大増加を示すのも 5～6 カ月間であるので妊婦の身体各部の増加と、胎児の発育とは密接な関係があるものと推察される。

2. 産後の復元率を妊娠月数別にみると、腹角は 3 カ月、長径項目は 4～5 カ月、周径項目・胴部横径・矢状径項目は 5～6 カ月、体重は 6～7 カ月にもどる。なお、腹部横径は 10 カ月でも僅かながら増加する。

3. 対身長示数値で各月間に大差ない項目は全後丈 (88)、後胴高 (61～62)、臍高 (58～57) でその他はかなりの差がみられる。特に著しいのは股上前後長 (47～59)、腹囲 (55～64)、腹部矢状径 (14～19)、腹角 (12～29)、体重 (32～39)、子宮底長 (8～21) である。また、前丈は (25～21) で月数が進むにつれ小となる。

4. 身長区分別対身長示数値によると、股上前後長・周径項目・腹角は身長の低いものの示数値が著しく大である。したがって妊婦の体型変化は身長の高いものより低いものに大きくあらわれる。

5. 横径に対する矢状径の比率は月数が進むにつれ大となる。この傾向は胴・腹部が著しく、4 カ月の胴部矢状径は横径の約 80%、腹部は約 73% であるが、10 カ月では胴部 104%、腹部 96% となり、矢状径が横径を上まわるものが、胴部は 70%、腹部は 23% である。

6. 横径に対する矢状径の比率と腹角を男女児出産者別にみると、いずれも男児出産者の方が大で、その体幹部は女児出産者に比して丸く、前方に突出していることが推察される。

7. 腹部は漸次大となり前方に突出するので、平衡を保つために上体を後方にそらし、いわゆる反身姿勢となるが、産後は常態時の姿勢にもどる。

8. 妊婦の体型変化は頸・肩・上腕・体幹・大腿部にみられ、それらの変化は正面より側面において著しく大で、胴囲線の前中心が著しく上部に移動し、また、姿勢は反身姿勢となる。産後は殆んど部位が 80～97% の復元率を示し、4～5 カ月の体型にもどるが、体幹部の周径・横径の復元率は低く、特に胸囲は 43%、腹部横径は産後でもなお、僅かではあるが増加している。

今後引き続き今回報告した以外の項目の集計整理をし、検討をすすめる一方、同一対象の月別追跡測定を継続して行ない、より多くの資料を得、これらにより妊産婦の身体各部寸法と体型、身体比例などを正しく把握して信頼できる衣服寸法設定と衣服構成のための資料に役立てたいと思う。

終りにこの測定によく協力して下さいました被測定者の方々、また、本研究に対し終始御

懇切な御指導をいただきました角谷産婦人科医院角谷哲司院長、九州大学山内光哉教授に深く感謝いたします。

文 献

- 1) 藤田光子他：生体計測—身体各部寸法について(8)—妊産婦(1) 広島女学院大学論集 第21集(1971)
- 2) 日本規格協会：日本人体格調査報告書(1970)
- 3) 日本規格協会：日本人体格調査報告書(1973)
- 4) 藤田恒太郎：生体観察 南山堂(1960)
- 5) 真柄正直：最新産科学 文光堂(1965)